

史観第一七八冊

井内敏夫教授 年譜・主要著作目録



年 譜

- 一九四七年 五月 井内直行・恵笑子の長男として徳島県勝浦郡小松島町（現、小松島市）で誕生
- 一九六〇年 三月 小松島市立南小松島小学校卒業
- 一九六三年 三月 徳島大学学部附属中学校（現、鳴門教育大学附属中学校）卒業
- 一九六六年 三月 徳島県立城南高等学校卒業
- 一九六七年 四月 早稲田大学第一文学部入学
- 一九七一年 三月 早稲田大学第一文学部西洋史専修卒業
- 同 四月 早稲田大学大学院文学研究科修士課程史学（西洋史）専攻入学
- 同 一〇月 ワルシャワ大学歴史学部留学（一七三年八月）
- 一九七四年 一月 早稲田大学第二文学部西洋文化専修副手（一七七年三月）
- 一九七五年 三月 早稲田大学大学院文学研究科修士課程史学（西洋史）専攻修了
- 同 四月 早稲田大学大学院文学研究科博士後期課程史学（西洋史）専攻入学

- 一九七七年 四月 早稲田大学文学部助手
- 一九八一年 三月 早稲田大学大学院文学研究科博士後期課程史学（西洋史）専攻退学
- 同 四月 早稲田大学文学部専任講師
- 一九八一—八二年 早稲田大学教員組合中央執行委員
- 一九八四年 四月 早稲田大学文学部助教授
- 同 九月 早稲田大学第二文学部教務副主任（学生担当）（～八六年九月）
- 一九八七年 四月 在外研究…ケンブリッジ大学、ダーウイン・コレッジ、アソシエイト・メンバー（～八八年三月）
- 一九八九年 四月 早稲田大学文学部教授
- 一九九一年 四月 早稲田大学大学院文学研究科委員
- 一九九四年 九月 早稲田大学第二文学部教務主任（学生担当）（～九六年九月）
- 一九九七年 四月 在外研究…ワルシャワ大学歴史研究所、客員研究員（～九八年三月）
- 二〇〇七年 四月 文学学術院文化構想学部の発足に伴い、社会構築論系に所属
- 二〇〇八年 四月 特別研究員（～〇九年三月）、ワルシャワ大学歴史研究所、客員研究員（〇八年一〇月～〇九年二月）
- 〔吉祥女子中・高等学校、國學院大學、明治大学、東京外国語大学、北海道大学（集中講義）で非常勤講師を務めた〕

主要著作目録

著書・編著・編書

- 一九八〇年 七月 『ポーランド民族の歴史』（山本俊朗先生との共著） 三省堂選書七五
- 一九九八年—二月 『ポーランド・ウクライナ・バルト史』（伊東孝之、中井和夫氏と共編著） 山川出版社
- 二〇〇七年 三月 『ヨーロッパ史のなかのエリート——生成・機能・限界』（編著書）（シトール会修道院『ヘンリクフの

書』にみる一三世紀ポーランド社会の変容） 太陽出版

二〇一七年 六月 『ロシア・東欧史における国家と国民の相貌』（編書） 晃洋書房

論文

一九七九年 三月 タデウシユ・コシチユシユコとアメリカ独立革命 『史観——文化交流の諸問題』第一〇〇冊

一九八〇年 五月 一八四六年のポーランド——クラクフ蜂起とガリツィア農民運動—— 『東欧史研究』第三号

同 六月 マテウシユ・プトウリモーヴィチ『ポーランドのユダヤ人を国にとって有益な公民にする方法』（一七八九） 『ユダヤ・イスラエル研究』第八・九合併号

一九八二年 一月 ポーランドの抵抗運動 『比較ファシズム研究』所収（成文堂）

同 一〇月 ポーランド四年議会（一七八八—九二）におけるユダヤ人問題と都市 『史観』第一〇七冊

一九八三年 三月 ポーランド「防壁」論の歴史的考察 『ソ連東欧社会の新研究』（早稲田大学社会科学研究所研究シリーズ一五）

一九八四年 八月 ポーランド四年議会と社会の近代化——一七九一年都市法を中心にして—— 『歴史評論』第四一二号

一九八六年 六月 ポーランドのリベルム・ヴェト考——その法的根拠について—— 『ソ連東欧地域の史的研究』（早稲田大学社会科学研究所研究シリーズ二二）

同 一二月 スタニスワフ・コナルスキの著書にみるリベルム・ヴェト 『社会科学討究』（早稲田大学社会科学研究所）第九三号

一九九〇年 三月 一四——一五世紀前半のポーランドにおける王と国家と社会——共和主義の起源—— 『スラヴ研究』第三七号

一九九一年 三月 ジェチボスポリタ、あるいはポーランドにおける共和主義の伝統について 『史観』第一二四冊

同 九月 一二五三年のボズナン市のロカーツィア——その事業過程と空間的構造を中心にして—— 『ロシア・東欧の歴史と文化』（早稲田大学社会科学研究所研究シリーズ二九）

一九九二年 二月 ポーランド史における三つの自由 仲手川良雄編『ヨーロッパ的自由の歴史』所収、(南窓社)

同 九月 中世ポーランドの騎士の連盟——一三三二年のヴィエルコポルスカの運動—— 野崎直治編『ヨーロッパの反乱と革命』所収、(山川出版社)

同 一一月 一三世紀ポーランドの都市改革と「ドイツ法」——一二五三年のボズナンの「建設」特許状を中心に
して—— 山本俊朗編『スラヴ世界とその周辺』所収、(ナウカ)

一九九五年 七月 シュラフタ共和政とポーランドのお国柄 和田春樹他編『講座スラブの世界三、スラブの歴史』所
収、(弘文堂)

一九九六年十二月 ヤギエウオ家時代のポーランドにおける国王選挙とシュラフタ 阪東宏編『ポーランド史論集』所
収、(三省堂)

二〇〇〇年 二月 初期中世ポーランドの貢租「ナジャズ」について 中山昭吉、松川克彦編『ヨーロッパ史研究の新地
平——ポーランドからのまなざし——』所収、(昭和堂)

二〇〇二年 三月 初期中世ポーランドの運搬と交通奉仕義務…プシエヴドを中心に 『早稲田大学大学院文学研究科紀
要』第四七輯・第四分冊

二〇〇四年 三月 初期中世ポーランドにおける騎士の権利と大土地所有——ルーシへのまなざしをもつて—— 鈴木健
夫編『ロシアとヨーロッパ——交差する歴史世界——』所収、(早稲田大学出版部)

同 一一月 前近代と近代のレスプブリカ——ポーランドからヨーロッパの国制観念をかいまみる—— 小倉欣一
編『近世ヨーロッパの東と西——共和政の理念と現実——』所収、(山川出版社)

二〇〇五年十二月 戴冠祭式書にみる中近世ポーランド王権への神の宿り方——テオクラシイ的専制と合意—— 『西洋
史論叢』第二七号

二〇〇八年 三月 盛期中世における植民法としてのドイツ法とその起源——ベネディクト・ジェンターラの論文紹介を
中心として—— 二二世紀COEプログラム「スラブ・ユーラシア学の構築」研究報告集第二四号

分担執筆

- 一九八七年 六月 ポーランドの歴史——その一—— 阪東宏編『ポーランド入門』所収、(三省堂)
- 一九九四年 一月 ポーランド封建社会の形成とその展開 野崎直治編『概説西洋社会史』所収、(有斐閣選書五〇四)

報告書

- 二〇〇三年 三月 『初期中世ポーランドの国家・社会構造——公の権利体制——の研究』 『平成一一—一四年度科学研究費補助金(基盤研究C) 研究成果報告書』
- 二〇〇七年 三月 中近世のポーランドにおけるジェムスキ法の史料 『近世ロシアにおける法文典の史料学的ならびに文献学的研究』(平成一六年度—平成一八年度科学研究費補助金基盤研究B—一研究成果報告書)

その他

- 一九八一年 一月 一九八〇年ポーランド労働者のストライキと民族性 『世界史のしおり』八一—一二二(帝国書院)
- 一九八二年 四月 第一次大戦以前における日本・ポーランド関係 『日本と東欧諸国の文化交流に関する基礎的研究』(東欧史研究会・日本東欧関係研究会)
- 一九八九年 五月 ヨーロッパ(現代——東欧、一九八八年の回顧と展望——) 『史学雑誌』第九八編第五号
- 一九九九年 一〇月 G・ヴェルナツキー著(松木栄三訳)『東西ロシアの黎明——モスクワ公国とリトアニア公国——』を読んで 『風のたより』第一〇号(風行社)
- 二〇〇四年 五月 ヨーロッパ(中世——東欧、二〇〇三年の回顧と展望——) 『史学雑誌』第一一三編第五号
- 同 二月 ウーリー・オルレブ著(母袋夏生訳)『壁のむこうから来た男』他 『ユダヤ・イスラエル研究』第二二〇号